

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

1.「直木博士に答-併せ先輩諸氏に質す」、『工学』3巻10号、大正5年10月〇*直木博士とは直木倫太郎。
2.「再び技術家を論ず」、『工学』4巻1号、大正6年1月。
3.「擁壁ノ図式設計法」、『土木学会誌』4巻3号、大正7年6月。
4.「飽水土砂の横圧力」、『工学』6巻1号、大正8年1月。
5.「等高線挿入法」、『工学』6巻2号、大正8年2月。6.「技術政策の真綿を思ふ(1)-(4)」、『工学』6
6.「技術政策の真綿を思ふ(1)-(4)」、『工学』6巻3号-6号、大正8年3月-6月。
7.「鋼建築設計上の略式」、『工学』6巻8号、大正8年8月。
8.「混凝土の配合と其強度(1)-(6)」、『工学』6巻9号-12号、7巻2号、3号、大正8年9月-12月、9年2月、3月。
9.「溪谷の泰明(1)(2)」、『工学』7巻4号、5号、大正9年4月、5月。
10.「都市計画ニ就テ(討議)」、『土木学会誌』6巻2号、大正9年4月。
11.「技術と労働」、『工学』7巻10号、大正9年10月。
12.「鉄筋混凝土版の計算法」、『工学』7巻11号、大正9年11月。
13.「技術家結集の機運」、『工学』7巻12号、大正9年12月。
14.「閘門ノ給排水設備」、『土木学会誌』6巻6号、大正9年12月。
15.「江戸川改修工事報告(討議)」、『土木学会誌』6巻6号、大正9年12月。
16.「基礎に於ける外力と応力(1)(2)」、『工学』8巻1号、2号、大正10年1月、2月。
17.「坂田時和氏に答ふ」、『工学』8巻2号、大正10年2月。
18.「日本工人倶楽部機関誌発刊の辞、宣言、発会の辞、古き手帳より、創立経過報告」、『工人』1号、大正10年2月。
19.「小野川水門眺開橋設計報告」、『土木学会誌』7巻1号、大正10年2月。
20.「人類生活の基調(上)」、『工人』2号、大正10年3月。
21.「狂婦人(モーパッサン)」(なにがし-宮本武之輔訳)、『工人』2号、大正10年3月。
22.「或る夜の一時間」(敢雅子-(宮本武之輔))、『工人』2号、大正10年3月。
23.「誰か我フーバーたるべき」(敢雅子-(宮本武之輔))、『工人』2号、大正10年3月。
24.「人類生活の基調(中)」、『工人』3号、大正10年4月。
25.「老境」(敢雅子-(宮本武之輔))、『工人』3号、大正10年4月。
26.「再び坂田氏に」、『工学』8巻5号、大正10年5月。
27.「五月雨の頃」(翠夢-(宮本武之輔))、『工人』6号、大正10年7月。
28.「開門ノ給排水設備(討議)」、『土木学会誌』7巻4号、大正10年8月。
29.「軟弱ナル地盤ニ建設セラレタル橋脚橋台ノ構造ノ竣成後二十五年間ノ経過ニ就キテ(討議)」、『土木学会誌』7巻4号、大正10年8月。
30.「夏飛脚満州往来(1)-(3)」(翠夢-(宮本武之輔))、『工人』8号-10号、大正10年9月-11月。
31.「小名木川閘門工事計画概要」、『土木学会誌』7巻6号、大正10年12月。
32.「巷に立ちて(1)-(3)」、『工人』13号-15号、大正11年2月-4月。
33.「理事としての抱負其3」、『工人』14号、大正11年3月。
34.「鉄筋混凝土桁の継足」、『工学』9巻5号、大正11年5月。
35.「小名木川閘門工事計画概要(討議)」、『土木学会誌』8巻4号、大正11年8月。
36.「宮本理事送別会の記宮本武之輔君の挨拶」、『工人』30号、大正12年8月。
37.「独逸及独逸人」、『工人』45号、大正14年5月。
38.「ドクター、コンラディー(1)(2)」、『工人』46号、47号、大正14年6月、7月。
39.「男女関係の将来」、『工人』47号、大正14年7月。
40.「英国に於ける職業組合」、『工人』48号、大正14年8月。
41.「鉄筋混凝土道路」、『道路の改良』7巻8号、大正14年8月。
42.「擬力論一疾力の理論及び実験を論じて鉄筋混凝土の抵抗力抵抗に及ぶ(節)(徳)編」、『土木学会誌』11巻4号、6号、大正14年8月、12月。
43.「仏国の死活」、『工人』49号、大正14年9月。
44.「独逸の子供ら」、『工人』49号、大正14年9月。
45.「独逸の小供から」、『工人』50号、大正14年10月。
46.「仏国の死活」、『工人』51号、大正14年11月。
47.「ジョン・ターナー君を迎ふ」、『工人』52号、大正15年1月。
48.「巴里の道路」、『道路』5巻1号、大正15年1月。
49.「巴里の交通機関」、『道路の改良』8巻1号、大正15年1月。
50.「大正十四年を顧みて」、『工人』53号、大正15年2月。
51.「欧米に於ける技術者組織運動」、『工人』54号、大正15年3月。
52.「要られざる娘」、『工人』54号、大正15年3月。
53.「欧米最近の混凝土工業(1)-(3)」、『道路の改良』8巻3号-5号、大正15年3月-5月。
54.「契られざる娘(続)」、『工人』55号、大正15年4月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

55.「伯林春秋」、『工人』57号、58号、59号、62号、大正15年6月-8月、11月。
56.「労働の権利と義務一本会指導精神の事ども」、『工人』59号、大正15年8月。
57.「北海道の道路」、『道路の改良』8巻8号、大正15年8月。
58.「混凝土道路に就て」、『道路の改良』8巻9号、大正15年9月。
59.「政治行動の基調」、『工人』62号、大正15年11月。
60.「混凝土施工上改良す可き諸点」、『土木建築工事画報』2巻11号、大正15年11月。
61.「急硬セメントに就て」、『都市工学』5巻12号、大正15年12月。
62.「試験の回数と其の精確度」、『都市工学』5巻12号、大正15年12月。
63.「急硬セメントに就て一手紙に代へて」、『工学研究』38冊、昭和2年1月。
64.「海水工事に於けるセメント」、『道路の改良』9巻1号、昭和2年1月。
65.「VERDREHUNGSVERSUCHE MIT UNBEWEHRTEN UND BEWEHRTEN BETONKÖRPERN」、『土木学会誌』13巻1号、昭和2年2月。
66.「鉄筋混凝土許容強度の規定」、『道路の改良』9巻3号、昭和2年3月。
67.「故金森博士を偲ぶ」、『土木建築雑誌』6巻3号、昭和2年3月。*金森博士とは金森鋤太郎。
68.「混凝土の弾性に就て(1)(2)」、『工学研究』41冊、42冊、昭和2年4月、5月。
69.「北丹の震災と鉄筋混凝土」、『道路の改良』9巻4号、昭和2年4月。
70.「改正セメント試験規則の解説」、『道路の改良』9巻5号、昭和2年3月。
71.「北丹の震災と鉄筋混凝土」、『土木建築雑誌』6巻5号、昭和2年5月。
72.「混凝土及鉄筋混凝土抗振試験報告」、『内務省土木試験所報告』6号、昭和2年5月。
73.「鉄筋混凝土螺旋杭に就て」、『道路の改良』9巻6号、昭和2年6月。
74.「巴里夜話(1)(2)」、『工人』71号、72号、昭和2年8月、9月。
75.「先生を偲ぶ」、『土木建築雑誌』7巻11号、昭和3年11月。*先生とは広井勇。
76.「信濃川補修工事に就て(1)(2)」、『土木建築雑誌』7巻11号、12号、昭和3年11月、12月。
77.「信濃川大河津自在堰の破壊と補修工事に就て(1)-(4)」、『水利と土木』2巻1号-4号、昭和4年1月-4月。
78.「信濃川補修工事グラフィック」、『土木建築工事画報』5巻1号、昭和4年1月。
79.「工事改善の緊要問題に対する各家の意見」、『土木建築工事画報』5巻2号、昭和4年2月。
80.「越路雁信」、『工人』99号、昭和5年1月。
81.「混凝土の用水量」、『水利と土木』3巻4号、昭和5年4月。
82.「混凝土工事界の近況と浅野ペロセメントに就て」、『道路の改良』12巻4号、昭和5年4月。
83.「産業合理化問題私見」、『工人』103号、昭和5年5月。
84.「鉄筋混凝土槽の設計(1)-(3)」、『水利と土木』3巻5号、7号、9号、昭和5年5月、7月、9月。
85.「安住の地」、『工人』104号、昭和5年6月。
86.「再び新旧コンクリートの接合に就て(討議)」、『土木学会誌』16巻7号、昭和5年7月。
87.「信濃川補修工事メモ(1)-(9)」、『土木建築雑誌』9巻7号、8号、10号-12号、10巻1号-4号、昭和5年7月、8月、10月-12月、6年1月-4月。
88.「感想」、『エンジニア』9巻9号、昭和5年9月。
89.「混凝土の表面仕上に就て(1)-(3)」、『道路の改良』12巻9号-11号、昭和5年9月-11月。
90.「混凝土材料投入の順序に就て」、『エンジニア』9巻10号、昭和5年10月。
91.「混凝土技師の話」、『工人』108号、昭和5年10月。
92.「河海工事に於ける混凝土の破壊に就て」、『水利と土木』3巻10号、昭和5年10月。
93.「混凝土の養生に就て」、『工学』18巻11号、昭和5年11月。
94.「混凝土の寒中施工」、『道路の改良』13巻1号、昭和6年1月。
95.「矩形函内の液体荷重がその安定に及ぼす影響」、『土木学会誌』17巻1号、昭和6年1月。
96.「議会否認より議会改造へ」、『工人』112号、昭和6年2月。
97.「信濃川補修工事竣工記念公約を果たして満腔の祝意を表す」、『水利と土木』4巻7号、昭和6年7月。
98.「竣成せる信濃川補修工事の概況」、『土木建築工事画報』7巻8号、昭和6年8月。
99.「技術家の見た今の支那の座談会」(宮本・成瀬勝武・那須章弥・山口昇・永井亨吉・田村興吉・長江了-)、『エンジニア』10巻10号、昭和6年10月。
100.「銅像物語」、『土木建築雑誌』10巻10号、昭和6年10月。
101.「鋼矢板座談会」(宮本・細田貫一・川上政一・竹中嘉義・小山弁二・青木楠男・坂田時和・長江了-)、『エンジニア』11巻1号、昭和7年1月。
102.「直轄工事と請負工事の得失を論ず」、『工人』122号、昭和7年1月。
103.「直轄工事と請負工事の得失を論ず」、『水利と土木』5巻1号、昭和7年1月。
104.「コンクリート工事の合理化」、『道路の改良』14巻1号、昭和7年1月。
105.「セメント水重量比とコンクリートの強度」、『エンジニア』11巻2号、昭和7年2月。
106.「失業救済と土木事業」、『工人』123号、昭和7年2月。
107.「満蒙問題と技術家」、『工人』124号、昭和7年3月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

108.「挨拶(会長代理として)」、『土木』9号、昭和7年5月。
109.「コンクリートの密度に就て」、『道路の改良』14巻6号、昭和7年6月。
110.「信濃川補修工事概要」(宮本・大塩政治郎・後藤憲一)、『土木学会誌』18巻6号、昭和7年6月。
111.「過去十年を顧みて +Y-Aの解法」、『土木建築雑誌』11巻6号、昭和7年6月。
112.「社会人心の推移を思ふ」、『工人』129号、昭和7年8月。
113.「海水対混凝土に就て」、『水利と土木』5巻8号、昭和7年8月。
114.「時局匡政土木事業に就て」、『工人』130号、昭和7年10月。
115.「発刊に際して青年技術家諸君に『土木工学』を奨む」、『土木工学』1巻1号、昭和7年10月。
116.「その後に来るもの」、『土木工学』1巻2号、昭和7年11月。
117.「土木工学と私」、『エンジニア』11巻12号、昭和7年12月。
118.「土木学会改造論」、『土木工学』1巻3号、昭和7年12月。
119.「土木行政統一論」、『水利と土木』6巻1号、昭和8年1月。
120.「満州視察談」、『土木』12号、昭和8年1月。
121.「満州国の行政機構を評す」、『土木工学』2巻2号、昭和8年2月。
122.「青年技術家の道」、『土木工学』2巻2号、昭和8年2月。
123.「土木学会振興委員会に望む」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻3号、昭和8年3月。
124.「沖縄の印象」、『土木工学』2巻5号、昭和8年5月。
125.「庄川流木権問題」(Y.S.K.-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻5号、昭和8年5月。
126.「正しき者は滅びず」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻5号、昭和8年5月。
127.「テクノクラシーの研究(1)(2)」、『土木工学』2巻6号、7号、昭和8年6月、7月。
128.「技術経済協会」(Y.S.K.-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻6号、昭和8年6月。
129.「混凝土委員会の設立を望む」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻6号、昭和8年6月。
130.「親分乾分」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻7号、昭和8年7月。
131.「党閥を排撃す」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻7号、昭和8年7月。
132.「土木工学は党閥か」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻7号、昭和8年7月。
133.「用語統一」(Taquechi-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻7号、昭和8年7月。
134.「LeRoyaume Technique」、『土木工学』2巻7号、昭和8年7月。
135.「鬼怒川堰堤問題の真相」、『水利と土木』6巻8号、昭和8年8月。
136.「鬼怒川堰堤問題の真相」、『土木学会誌』19巻8号、昭和8年8月。
137.「坂モーメントを受ける鉄筋コンクリート円形断面部材の解法に就て(討議)」、『土木学会誌』19巻8号、昭和8年8月。
138.「鬼怒川堰堤問題の真相(上・下)」、『土木工学』2巻8号、9号、昭和8年8月、9月。
139.「科学者・工学者・技術者」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻8号、昭和8年8月。
140.「属僚政治」(Y.S.K.-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻8号、昭和8年8月。
141.「ゴルフ狂時代」(Taquechi-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻8号、昭和8年8月。
142.「非常時局と土木事業」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻9号、昭和8年9月。
143.「匿名の評論」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻9号、昭和8年9月。
144.「メートル法実施問題」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻9号、昭和8年9月。
145.「ガード下の朝」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻9号、昭和8年9月。
146.「満州国を語る」、『工人』138号、昭和8年10月。
147.「学術論文と欧文」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻10号、昭和8年10月。
148.「土木部増設問題」(信公-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻10号、昭和8年10月。
149.「砂丘に於ける河口の維持」、『水利と土木』6巻11号、昭和8年11月。
150.「庄川問題解決」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻11号、昭和8年11月。
151.「生産公債法」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻11号、昭和8年11月。
152.「行政機構の統一」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻11号、昭和8年11月。
153.「故広井勇先生を憶ふ」、『土木工学』2巻12号、昭和8年12月。
154.「対満朝連絡港問題」(宮本-武之輔)、『土木工学』2巻12号、昭和8年12月。
155.「土木学会と本誌」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻12号、昭和8年12月。
156.「道路と鉄道との交叉問題」(宮本-武之輔・三浦)、『土木工学』2巻12号、昭和8年12月。
157.「効率の功罪」(Y.S.K.-(宮本武之輔))、『土木工学』2巻12号、昭和8年12月。
158.「随感随想」、『工人』141号、昭和9年1月。
159.「ポルトランド及馨土セメントの混合に就て」、『水利と土木』7巻1号、昭和9年1月。
160.「指導精神の革新」、『工人』142号、昭和9年2月。
161.「文王-怒靖天下民」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻2号、昭和9年2月。
162.「満州国の土木行政」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻2号、昭和9年2月。
163.「最近の問題二つ」、『工人』143号、昭和9年3月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

164.「白海・パルチック海運河の竣工」、『土木工学』3巻3号、昭和9年3月。
165.「古市公威博士の寛まを悼む」、『土木工学』3巻3号、昭和9年3月。
166.「上海築港計画」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻3号、昭和9年3月。
167.「技術家の操守」、『工人』144号、昭和9年4月。
168.「河川災害工事に就て」、『水利と土木』7巻4号、昭和9年4月。
169.「再び満州国土木行政機構に就て」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻4号、昭和9年4月。
170.「Boys, Be Hopeful」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻4号、昭和9年4月。
171.「ポールダー堰堤コンクリート工事」、『水利と土木』7巻5号、昭和9年5月。
172.「堰堤基礎砂層に於ける地下水に就て」、『土木工学』3巻5号、昭和9年5月。
173.「羨ましき土木王国伊大利」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻5号、昭和9年5月。
174.「技術家操守論」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻5号、昭和9年5月。
175.「公人の不平と私人の不満」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻5号、昭和9年5月。
176.「最後迄技術の本領を護れ」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻6号、昭和9年6月。
177.「那須章弥氏の死」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻6号、昭和9年6月。
178.「新内閣に望む」、『工人』148号、昭和9年8月。
179.「無視せられたる政党」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻8号、昭和9年8月。
180.「学術とリベラリズム」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻8号、昭和9年8月。
181.「信念に生きよ」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻9号、昭和9年9月。
182.「農村工業化問題」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻9号、昭和9年9月。
183.「時局と科学」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻9号、昭和9年9月。
184.「農村と土木事業」、『科学知識』14巻10号、昭和9年10月。
185.「時局匡政事業善後策に就て」、『工人』150号、昭和9年10月。
186.「災害工事検査官申合事項解説」、『水利と土木』7巻10号、昭和9年10月。
187.「時局匡政土木事業の結末」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻10号、昭和9年10月。
188.「巨船遭難事件」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻10号、昭和9年10月。
189.「危機は国内にも在り」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻10号、昭和9年10月。
190.「天災地変」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻10号、昭和9年10月。
191.「一元の人生」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻10号、昭和9年10月。
192.「河口導流堤の効果」、『水利と土木』7巻11号、昭和9年11月。
193.「土木学会廿周年を迎ふ」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻11号、昭和9年11月。
194.「災害工事と技術者」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻11号、昭和9年11月。
195.「組織化と公式化」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻11号、昭和9年11月。
196.「災害日本」、『工人』152号、昭和9年12月。
197.「亡友を憶ふ」、『土木工学』3巻12号、昭和9年12月。 亡友とは来島良亮。
198.「コンクリート-の過信」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻12号、昭和9年12月。
199.「青年と時代の推移」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻12号、昭和9年12月。
200.「感激の力」(宮本-武之輔)、『土木工学』3巻12号、昭和9年12月。
201.「土木監督官制度の必要を提唱す」、『水利と土木』8巻1号、昭和10年1月。
202.「低熱セメントに就て」、『水利と土木』8巻1号、昭和10年1月。
203.「橋梁の災害工事に就て」、『道路の改良』17巻1号、昭和10年1月。
204.「河川法解説(1)-(5)」、『土木工学』4巻1号-5号、昭和10年1月-5月。
205.「工学と技術」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻1号、昭和10年1月。
206.「北原喋君の死」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻1号、昭和10年1月。
207.「就職難側面観」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻2号、昭和10年2月。
208.「昭和土木工学士会」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻2号、昭和10年2月。
209.「疑獄問題の考察」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻2号、昭和10年2月。
210.「災害工事と土木監督官制度」、『水利と土木』8巻3号、昭和10年3月。
211.「経済部と土木部」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻3号、昭和10年3月。
212.「土木学会総会に出席して」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻3号、昭和10年3月。
213.「正統派と危道派」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻4号、昭和10年4月。
214.「青い鳥」(野洲生-(宮本武之輔))、『土木工学』4巻4号、昭和10年4月。
215.「ゴルフと人生(1)」、『東京朝日新聞』12日、昭和10年4月。
216.「ゴルフと人生(2)」、『東京朝日新聞』13日、昭和10年4月。
217.「ゴルフと人生(3)」、『東京朝日新聞』14日、昭和10年4月。
218.「青年と語る」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻5号、昭和10年5月。
219.「電話異変」、『週刊朝日』12日、昭和10年5月。
220.「吏道」、『水利と土木』8巻6号、昭和10年6月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

221.「避退」、『土木工学』4巻6号、昭和10年6月。
222.「コンラディー先生」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻6号、昭和10年6月。
223.「寛克彦博士の講演」、『土木工学』4巻6号、昭和10年6月。
224.「ゼネレーションの力」、『土木』25号、昭和10年7月。
225.「経済部長会議に聴く」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻7号、昭和10年7月。
226.「人生に於ける闘争と協和」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻7号、昭和10年7月。
227.「地すべりの話(1)-(3)」、『東京朝日新聞』10日-12日、昭和10年7月。
228.「災害と土木工学」、『水利と土木』8巻8号、昭和10年8月。
229.「朋党論」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻8号、昭和10年8月。
230.「マックス・オーレル抄」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻8号、昭和10年8月。
231.「防災科学私見」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻9号、昭和10年9月。
232.「土木工学の再検討」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻9号、昭和10年9月。
233.「東北振興計画批評」、『技術日本』159号、昭和10年10月。
234.「技術者の功罪」(宮本-武之輔)、『土木工学』4巻10号、昭和10年10月。
235.「治水策の検討」、『水利と土木』8巻11号、昭和10年11月。
236.「洪水の惨害と治水事業」、『科学知識』15巻12号、昭和10年12月。
237.「水害の原因と対策」、『技術日本』160号、昭和10年12月。
238.「水と人生」、『水利と土木』9巻1号、昭和11年1月。
239.「支那満州警見記1-3」、『道路の改良』18巻1号-3号、昭和11年1月-3月。
240.「東洋工業会議の感想一日華親善と技術的提携」、『土木学会誌』22巻1号、昭和11年1月。
241.「満州国の展望」(宮本-武之輔)、『土木工学』5巻1号、昭和11年1月。
242.「リベラリズムの衰亡」(宮本-武之輔)、『土木工学』5巻1号、昭和11年1月。
243.「日華親善の要諦」、『技術日本』162号、昭和11年2月。
244.「神詣で」(宮本-武之輔)、『土木工学』5巻2号、昭和11年2月。
245.「江兆銘と唐有壬」(宮本-武之輔)、『土木工学』5巻2号、昭和11年2月。
246.「土木学会に望む」(宮本-武之輔)、『土木工学』5巻3号、昭和11年3月。
247.「学生のスーーム」(宮本-武之輔)、『土木工学』5巻3号、昭和11年3月。
248.「更始一新の好機」、『技術日本』164号、昭和11年4月。
249.「非常時土木国策論」、『水利と土木』9巻4号、昭和11年4月。
250.「災害土木工事の指導精神」、『水利と土木』9巻5号、昭和11年5月。
251.「技術家の社会的団結」、『技術日本』166号、昭和11年6月。
252.「水害防止協議会に就て」、『水利と土木』9巻7号、昭和11年7月。
253.「水害防止協議会の協議事項に就て(1)-(3)」、『水利と土木』9巻9号-11号、昭和11年9月-11月。
254.「行政機構の改正」、『技術日本』168号、昭和11年10月。
255.「土木省設置問題管見」、『土木学会誌』22巻10号、昭和11年10月。
256.「行政機構の改革を論ず」、『水利と土木』9巻11号、昭和11年11月。
257.「東亜民族の技術的提携」、『土木学会誌』22巻11号、昭和11年11月。
258.「座談会技術者の社会的地位・任務に就て」(役員側-宮本武之輔・佐野利器・小林隆徳・朽木義男・銅山均一・村山茂・大島三郎・山田守・紀伊寿次・森田重彦・増EB長太郎・島田藤・伊部貞書・小林政一・尾崎義一・武富英一・田中章一。新進技術家-山越邦彦・保岡豊・植田茂・甲野繁夫・長谷川幸二郎・市浦健・吉村辰夫・高木国夫・岡部二郎・山崎究・谷口吾郎・小林肇・奥田秋夫・綾亀一・野原其孝・岡巖一・二宮錠治・大石義郎・細川泉一郎・伊藤道夫・池田陽男・寺井勝)、『技術日本』169号、昭和11年12月。
259.「災害防除の方策を論ず」、『水利と土木』10巻1号、昭和12年1月。
260.「林内閣への期待」、『技術日本』171号、昭和12年2月。
261.「尾去沢鉦山堰堤決壊問題」、『水利と土木』10巻2号、昭和12年2月。
262.「新春雑筆」、『土木』33号、昭和12年2月。
263.「河川協会の使命とその事業」、『水利と土木』10巻3号、昭和12年3月。
264.「本会の更始一新」、『技術日本』174号、昭和12年6月。
265.「老廃兵」(.Ya-(宮本武之輔))、『技術日本』174号、昭和12年6月。
266.「地方進出と街頭進出との新動向」、『土木学会誌』23巻6号、昭和12年6月。
267.「技術家団結の指導原理」、『技術日本』175号、昭和12年7月。
268.「革新的国策樹立の要件」、『技術日本』176号、昭和12年8月。
269.「随筆空の旅」、『科学主義工業』1巻5号、昭和12年10月。
270.「時局下に何を為すべきか」に対する回答文、『技術日本』178号、昭和12年10月。
271.「工学界の新題」、『科学ペン』2巻11号、昭和12年11月。
272.「技術立国技術者大会開会の辞開会の辞」、『技術日本』180号、昭和12年12月。
273.「昭和十二年ピクメモ」に対する回答文、『技術日本』180号、昭和12年12月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

274.「技術者大会に於ける宮本相談役の開会の挨拶」、『土木』39号、昭和13年1月。
275.「文官制度改革と技術官優遇」、『技術日本』182号、昭和13年2月。
276.「南満及北支雑感」、『水利と土木』11巻2号-5号、昭和13年2月-5月。
277.「南満及北支の治水」、『汎交通』39巻2号、昭和13年2月。
278.「支那事変と技術者の覚悟」、『技術日本』183号、昭和13年3月。
279.「技術官僚の優遇(1)-(3)」、『東京朝日新聞』27日-29日、昭和13年3月。
280.「大陸発展と技術」、『科学主義工業』1巻11号、昭和13年4月。
281.「国政事務と技術官」、『科学ペン』3巻4号、昭和13年4月。
282.「対支技術連盟の結成」、『技術日本』184号、昭和13年4月。
283.「東亜の天地三千里」、『土木』41号、昭和13年4月。
284.「技術家重用論」、『土木学会誌』24巻4号、昭和13年4月。
285.「対支政策座談会(第1回)」(宮本武之輔・井上秀二・大蔵公望・梶井剛・園部一郎・中川書道・久保田久晴・山根新次・山下興家・小平権一・新井栄吉・白井武・小野二郎・小林隆徳・大西幸雄・相島敏夫)、『技術日本』
286.「国策・科学・技術」、『文芸春秋時局増刊(現地報告)』9号(16巻10号)、昭和13年6月。
287.「支那開発と技術」、『土木学会誌』24巻7号、昭和13年7月。
288.「黄河治水」、『文芸春秋』(時局増刊・現地報告)10号(16巻12号)、昭和13年7月。
289.「大草河の治水」、『科学知識』18巻8号、昭和13年8月。
290.「技術日本の指導精神」、『技術日本』188号、昭和13年8月。
291.「対支政策座談会(第四回)」(宮本武之輔・新井栄吉・井上秀二・大蔵公望・大島義春・小
292.「技術者徴用と新技術者精神」、『文芸春秋』(時局増刊・現地報告)12号(16巻16号)、昭和
293.「治水の科学・防水の技術」、『科学ペン』3巻10号、昭和13年10月。
294.「東京朝日新聞社説『社会機構と技術』を駁す」(宮本武之輔・富永義雄・黒野勘六・後藤一
295.「技術の社会性」、『帝国大学新聞』17日、昭和13年10月。
296.「産業技術連盟の動向」、『技術日本』191号、昭和13年11月。
297.「現代"技術"問題の検討 社会機構と技術 - 『東朝』記者に答ふ」、『工業国策』1巻7号、昭和13年11月。
298.「昭和十三年度ビッグメモ」に対する回答文、『技術日本』192号、昭和13年12月。
299.「箱入娘と犬」、『文芸春秋』16巻21号、昭和13年12月。
300.「災害科学」、『土木日本』2巻1号、昭和14年1月。
301.「国家総動員と技術者の徴用(1)-(3)」、『東京朝日新聞』24日-26日、昭和14年1月。
302.「興亜の先駆日本工学を語る座談会」(宮本武之輔・岡部栄一・梶井剛・鈴木雅次・平山復二郎・松前重
303.「初代の煙突男(上・下)」、『東京日日新聞』9日、10日、昭和14年2月。
304.「半生の回顧」、『科学主義工業』2巻10号、昭和14年3月。
305.「興亜技術の根本原理」、『技術日本』195号、昭和14年3月。
306.「技術者配給統制に関する座談会(第1回)」(宮本武之輔・熊谷憲一・佐伯敏男・三川克己・稲生有年・金井
307.「支那の建設と技術」、『電気学会雑誌』59巻3冊、昭和14年3月。
308.「興亜技術の指導精神」、『文芸春秋』(特別号)18巻5号、昭和14年3月。
309.「箱入娘と兵隊」、『サンデー毎日』5日、昭和14年3月。
310.「"騎兵隊"大陸科新設」、『東京朝日新聞』26日、昭和14年3月。
311.「時局と生産工学の確立」、『エコノミスト』17年12号、昭和14年4月。
312.「興亜建設の水利問題」、『技術評論』16巻4号、昭和14年4月。
313.「青山緑林」、『旅』16巻4号、昭和14年4月。
314.「工業教育刷新論(1)-(3)」、『東京朝日新聞』7日-9日、昭和14年4月。
315.「学生時代の交友録ポートの選出 - 東京帝国大学」、『オール読物』9巻5号、昭和14年5月。
316.「多能工か単能工か - 生産拡充と単能工」、『科学主義工業』2巻12号、昭和14年5月。
317.「技術人第一課 - 新しく世に出づる技術者に贈る」、『科学ペン』4巻5号、昭和14年5月。
318.「学生と大陸興亜建設と青年教育」、『セルパン』100号、昭和14年5月。
319.「大陸経営と科学の使命 - 黄河文化の復興」、『大陸』2巻5号、昭和14年5月。
320.「国民性の革新」、『中央公論』54年5号、昭和14年5月。
321.「科学者一人一語集真実一路」、『雄弁』30巻5号、昭和14年5月。
322.「尊い礎石 - 現地視察の旅から帰って(1)-(3)」、『東京日日新聞』26日、27日、30日、昭和14年5月。
323.「座談会:工業教育を語る」(宮本武之輔・池田謙三・石井茂助・小笠原豊光・梶井剛・加藤興五郎・佐野利
324.「黄塵に塗れて」、『文芸春秋』(時局増刊・現地報告)21号(17巻12号)、昭和14年6月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

325.「新技術者精神」、『雄弁』30巻6号、昭和14年6月。
326.「杭州スケッチ」、『科学知識』19巻7号、昭和14年7月。
327.「新東亜建設の諸要請」、『革新』2巻7号、昭和14年7月。
328.「大陸開発の経済理念」、『工業評論』25巻7号、昭和14年7月J
329.「大陸の水道事業」、『水道協会雑誌』74号、昭和14年7月。
330.「紀行中支から北支へ」、『写真週報』72号、昭和14年7月。
331.「時局と生産工学」、『エコノミスト』17巻20号、昭和14年7月。
332.「新東亜建設と技術座談会」(宮本武之輔・阿部敏雄・金子源一郎・勝俣稔・岸良一・黒野勘七・斉藤齊・高橋嘉一郎・中里実・長島正隆・八田与一・本多静雄・山下清吉・梶井剛・白井武・山田守・篠原登・大西幸雄・亀井幸次郎)、『技術評論』16巻8号、昭和14年8月。
333.「黄河の氾濫」、『現代』20巻8号、昭和14年8月。
334.「興亜建設の水利問題」、『水利と土木』12巻8号、昭和14年8月。
335.「技術日本の建設」、『大大阪』15巻8号、昭和14年8月。
336.「読書論」、『土木』52号、昭和14年8月。
337.「大陸建設と技術協力」(興亜院-(宮本武之輔))、『週報』147号、昭和14年8月。
338.「天津の洪水(上・下)」、『東京朝日新聞』28日、29日、昭和14年8月。
339.「科学的国民性」、『科学主義工業』3巻4号、昭和14年9月。
340.「技術と経済との課題」、『技術評論』16巻9号、昭和14年9月。
341.「『生めよ殖せよ対策』に対する回答文」、『科学知識』19巻9号、昭和14年9月。
342.「英国を語る(上)(中)(下)」、『東京日日新聞』10日-13日、昭和14年9月。
343.「二十三年前の北京」、『科学ペン』4巻10号、昭和14年10月。
344.「技術国策と国民教育」、『教育』7巻10号、昭和14年10月。
345.「学校教育と社会教育」、『教育研究』503号、昭和14年10月。
346.「時局下の工業雑誌観」、『内燃機関』3巻10号、昭和14年10月。
347.「大陸建設の現状と新計画」、『雄弁』30巻10号、昭和14年10月。
348.「向陵の思ひ出(1)(2)」、『東京朝日新聞』30日、31日、昭和14年10月。
349.「大陸の建設」、『港湾』17巻11号、昭和14年11月。
350.「教室以外の教室」、『婦人公論』24巻11号、昭和14年11月。
351.「『入試問題の波紋』に対する回答文」、『科学知識』19巻11号、昭和14年11月。
352.「日本新秩序の建設(12)総合国策遂行のための急務・割拠主義の清算」、『報知新聞』29日、昭和14年11月。
353.「科学の文化的性格」、『駿台新報』470号、昭和14年11月。
354.「科学への精進」、『応用物理』8巻12号、昭和14年12月。
355.「高原千里一豪彊の旅を描く」、『文芸春秋』(時局増刊・現地報告)27号(17巻24号)、昭和14年12月。
356.「皇紀二千六百年を迎ふ」、『技術評論』17巻1号、昭和15年1月。
357.「技術と文芸座談会」(宮本武之輔・石上玄一郎・石川達三・佐野昌一・林芙美子・間宮茂輔・有馬頼寧・梶井剛・相島敏夫・篠原登・福地俊典・松前重義・松岡久雄)、『技術評論』17巻1号、昭和15年1月。
358.「興亜日本の青年に望む」、『支那』31巻1号、昭和15年1月。
359.「興亜日本の技術者に望む」、『水道協会雑誌』80号、昭和15年1月。
360.「興亜日本の技術者の責任」、『電気工学』29巻1号、昭和15年1月。
361.「日本は今如何なる土木を必要と致すべきや」、『土木建築工事画報』16巻1号、昭和15年1月。
362.「技術の性格的發展」、『経済情報政経篇』15巻2号、昭和15年2月。
363.「新に世に出る技術者へ」、『北海道帝国大学新聞』228号、昭和15年2月。
364.「科学の貧困」、『エコノミスト』18年7号、昭和15年3月。
365.「東亜協同体の科学的基調」、『外交時報』846号、昭和15年3月。
366.「生産拡充政策に就き技術者より現内閣への献策(はがき回答)-技術者(殊に生産に従事する)の会議を提唱す」、『科学主義工業』4巻3号、昭和15年3月。
367.「日本工学の独立を提唱す」、『工学と工業』8巻3号、昭和15年3月。
368.「技術者精神の根幹」、『水道』15巻3号、昭和15年3月。
369.「興亜技術の三つの性格」、『通信協会雑誌』379号、昭和15年3月。
370.「対支文化工作を強力に展開せよ」(宮本武之輔・官房治郎・那須暗・松村姦・三浦仲平)、『文芸春秋』(時局増刊・現地報告)30号(18巻5号)、昭和15年3月。
371.「科学時評憂ふべき資本主義的動向-理科学学生の減少」、『東京朝日新聞』16日、昭和15年3月。
372.「科学時評科学振興を重点とせよ-教育国策の刷新」、『東京朝日新聞』17日、昭和15年3月。
373.「科学時評社会教育としての科学教育-芸術作品の利用」、『東京朝日新聞』18日、昭和15年3月。
374.「科学時評科学日本に課せられた使命-大陸の資源開発」、『東京朝日新聞』19日、昭和15年3月。
375.「わが学生時代を語る『白雨集』から」、『科学知識』20巻4号、昭和15年4月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

376.「技術学生と語る座談会」(宮本武之輔・河村義一・久保田栄・斉藤龍介・中村貞成・二日市定昌・宮田一弥・村松林太郎・山崎俊雄・棉島敏夫・秋谷京蔵・加納秀雄・篠原登・松井達夫・松岡久雄・松前重義)、『技術評論』377号、昭和15年4月。
377.「文化映画私見」、『文化映画研究』3巻4号、昭和15年4月。
378.「戦時体制の強化」、『文芸春秋』(時局増刊・現地報告)31号(18巻7号)、昭和15年4月。
379.「興亜技術の基本性格」、『興亜』昭和15年5月号、昭和15年5月。
380.「科学に親しまぬ国民が一現代青少年の科学的教長」、『少年保護』5巻5号、昭和15年5月。
381.「民族文化の創造」、『全人』10巻5号、昭和15年5月。
382.「新東亜の建設と技術の使命」、『電気協会雑誌』221号、昭和15年5月。
383.「新支那の工業化と日本の技術」、『科学主義工業』4巻6号、昭和15年6月。
384.「大陸経済建設の課題」、『科学知識』20巻6号、昭和15年6月。
385.「理科系学生教育座談会」(宮本武之輔・安達禎・岩崎亀・石井通則・江口平・久保満雄・佐々木順三・鈴江康平・関口鯉吉・吉塚清・樋貝詮三・山口次平・梶井剛・松前重義・松岡久雄・篠原登)、『技術評論』17巻6号、昭和15年6月。
386.「産業科学と実業教育」、『実業教育』2巻6号、昭和15年6月。
387.「時局と学生-自然科学者の立場から見る」、『昭徳』5巻5号、昭和15年6月。
388.「霊と科学」、『科学』10巻9号、昭和15年8月。
389.「童話を通じて見た日本民族性」、『支那』31巻7号、昭和15年8月。
390.「輿論調査-新体制へのプラン(アンケート)回答文」、『文芸春秋』(時局増刊・現地報告)35号(8巻9号)、昭和15年8月。
391.「興亜国策と技術」、『沖電気時報』7巻5号、昭和15年9月。
392.「新体制下の科学と技術」、『改造』22巻16号、昭和15年9月。
393.「読書と生活」、『科学知識』20巻9号、昭和15年9月。
394.「新体制と科学政策」、『文芸春秋特別号』18巻12号、昭和15年9月。
395.「科学者の夢」、『雄弁』31巻9号、昭和15年9月。
396.「科学振興論(1)『国民化学化』が先決」、『帝国大学新聞』23日、昭和15年9月。
397.「国防技術論(上)(2)(4)」、『報知新聞』27日、28日、30日、昭和15年9月。
398.「科学教育振興の具体方法」、『教育』8巻10号、昭和15年10月。
399.「何を為すべきか-高度国防国家と学生の任務」、『子供の科学』26巻10号、昭和15年10月。
400.「新東亜建設に就て」、『土木』59号、昭和15年10月。
401.「山西雑感」、『文芸春秋』(現地報告)37号(8巻11号)、昭和15年10月。
402.「科学精神の作興と放送」、『放送』10巻10号、昭和15年10月。
403.「車中雑感」、『サンデー毎日』27日、昭和15年10月。
404.「大陸の水利建設(上)(中)(下)」、『東京日日新聞』29日-31日、昭和15年10月。
405.「技術国策論」、『改造』22巻20号、昭和15年11月。
406.「上海の一夜」、『支那』31巻11号、昭和15年11月。
407.「体制翼賛と技術者」、『電気雑誌オーム』27巻11号、昭和15年11月。
408.「座談会科学技術新体制と国家管理」(宮本武之輔・浜田成徳・堀岡正家・堀川冬弘・内田俊一・藤沢威雄・木村介次)、『科学主義工業』4巻12号、昭和15年12月。
409.「東亜経済協同体と日本技術」、『技術評論』17巻12号、昭和15年12月。
410.「中小工業者と技術問題」、『工業組合』2巻12号、昭和15年12月。
411.「著述と書斎」、『書斎』4巻12号、昭和15年12月。
412.「国家と科学」、『理想』115号、昭和15年12月。
413.「科学新体制(上)(中)(下)」、『東京日日新聞』18日-20日、昭和15年12月。
414.「技術者運動の再出発」、『技術評論』18巻1号、昭和16年1月。
415.「偉大なる信念の書」、『政界往来』12巻1号、昭和16年1月。
416.「技術水準向上に関する提案」、『ダイヤモンド』29巻1号、昭和16年1月。
417.「国土計画と港湾政策」、『都市問題』32巻1号、昭和16年1月。
418.「パラフレニー」、『文芸春秋』(新年特別号)19巻1号、昭和16年1月。
419.「国民生活の科学化」、『雄弁』32巻1号、昭和16年1月。
420.「ひとつの史観」、『家庭・生活』7巻1号、昭和16年1月。
421.「自然科学の回顧と展望科学動員」、『帝国大学新聞』1日、昭和16年1月。
422.「工場従業員の指導理念(上・下)」、『報知新聞』14日、15日、昭和16年1月。
423.「科学殿堂の礎石」、『早稲田大学新聞』15日、昭和16年1月。
424.「国防国家と技術政策」、『工業国策』4巻2号、昭和16年2月。
425.「政治と科学を語る座談会」(宮本武之輔・氏家長明・風見章・木村正義・佐藤武夫・砂田重成・竹内時男・寺尾新・富家清・中島弥団次)、『政界往来』12巻2号、昭和16年2月。
426.「炉辺隨筆」、『オール読物』11巻3号、昭和16年3月。
427.「東亜共栄圏と日本技術」、『科学主義工業』5巻3号、昭和16年3月。

宮本武之輔 自著論文リスト(学術誌・新聞等)

428.「青少年に懲ふ」、『科学人』創刊号、昭和16年3月。
429.「科学動員論」、『工業組合』3巻3号、昭和16年3月。
430.「科学精神と生活」、『セルパン』122号、昭和16年3月。
431.「すて石」、『週刊朝日』23日、昭和16年3月。
432.「民族の誇」、『現代』22巻4号、昭和16年4月。
433.「技術公開論」、『産業能率』14巻4号、昭和16年4月。
434.「国防理工科大学論」、『日本評論』昭和16年4月号、昭和16年4月。
435.「高度国防国家建設と技術座談会」(宮本武之輔・梶井剛・松前重義)、『文芸春秋』19巻4号、昭和16年4月。
436.「日本の底力(8)科学は飛躍を続ける」、『週刊朝日』20日、昭和16年4月。
437.「偉大なる専門家」、『支那』32巻5号、昭和16年5月。
438.「日本科学存立の論証」、『文芸春秋』19巻5号、昭和16年5月。
439.「有馬会長他招待晚餐会でのスピーチ」、『技術評論』18巻6号、昭和16年6月。
440.「産業能率ノ増進ニ就テ」、『工業と経済』102号、昭和16年6月。
441.「事変四周年と生活捨身精神」、『改造』23巻14号、昭和16年7月。
442.「超非常の反省と覚悟—祖国のために」、『文芸春秋』(現地報告)47号(9巻8号)、昭和16年8月。
443.「国民志気の作与」、『エコノミスト』19年33号、昭和16年9月。
444.「国家総力戦と女性動員」、『婦人公論』26巻10号、昭和16年10月。
445.「産業戦士に懲ふ」、『文芸春秋』19巻11号、昭和16年11月。
446.「総力戦と産業再編成」、『科学主義工業』5巻12号、昭和16年12月。
447.「本年の科学界を顧る科学戦進軍譜」、『帝国大学新聞』15日、昭和16年12月。
448.「人口問題雑感(遺稿)」、『人口問題』4巻3号、昭和17年1月。
449.「戦争と女性徴用」、『婦人公論』27巻2号、昭和17年2月。